

日商 2 級工簿 豆テスト # 01 問題 (P.32 ~ P.48)

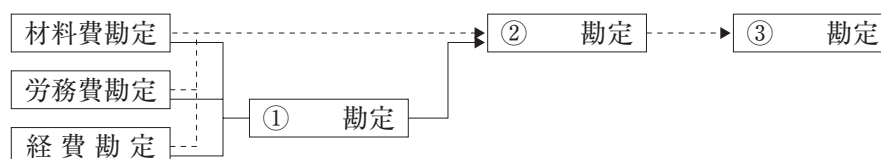
問題 1 工業簿記と原価計算の関係について正しい説明が行われているものに○印を付しなさい。

- ① 工業簿記は商業簿記の延長として行われるものであり、原価計算と密接な関係を持っている。
- ② 工業簿記は通常工場等の製造現場で行われるものであり、原価計算は本社の経理部などで行われる。
- ③ 工業簿記は商業簿記と同様に複式簿記により行われるものであり、原価計算を基礎とする。
- ④ 小規模な製造業では、工業簿記を省略して原価計算を基礎にしてその記帳を行うことができる。
- ⑤ 工業簿記は内部取引、外部取引の両方を記録するものであり、特に内部取引の記帳は原価計算による情報が不可欠である。
- ⑥ 工業簿記は製品の単位原価（製造原価）を計算するものであり、原価計算はこれを具体的に記帳するための方法である。

問題 2 原価計算の 2 つの方法について、その名称を解答用紙の各欄に記入しなさい。

- A 個々の製品が注文などにより生産され、その製造原価が異なる製品の原価について行われる原価計算であり、建設業や貴金属業などで行われる原価計算である。
- B 連続して同じ製品を生産する製造業において用いられる原価計算であり現在の大量の製品が生産される製造業の多くで行われている原価計算である。

問題 3 工業簿記に関する勘定口座の体系図について下記に示す 3 つの勘定口座の名称を答えなさい。



日商 2 級工簿 豆テスト # 01 解答用紙

問題 1

1	
2	
3	
4	
5	
6	

問題 2

- A () 原価計算
- B () 原価計算

問題 3

①	
②	
③	

日商 2 級工簿 豆テスト # 01 解答・解説

問題 1

① - ×、② - ×、③ - ○、④ - ×、⑤ - ○、⑥ - ×

解説

工業簿記も商業簿記と同様に複式簿記による記帳が行われる。この工業簿記の大きな特徴は企業外部との取引の他に内部取引と呼ばれる原材料費の消費や完成品原価を記帳するところにある。この内部取引は、原価計算によりその消費額や完成品原価が計算され、この金額を基礎にして工業簿記の記帳が行われる。また工業簿記と原価計算は、製造業では表裏一体として行われる密接な関係にあることも理解しておく必要がある。

問題 2

- Ⓐ (個別) 原価計算
- Ⓑ (総合) 原価計算

解説

原価計算は、同一製品の大量生産によるか、もしくは個別受注品の生産によるかで 2 つの方法がある。学習上は常にこの 2 つの方法のうちのいずれかを前提にしているかにより各論点の学習を進めることが重要である。

問題 3

- ① 製造間接費
- ② 仕掛品
- ③ 製品

解説

本問は、工業簿記における勘定の体系において基本となる関連図である。この 3 つの勘定口座がどのように配列されているのか、さらにどのような金額が振替えられるかを正しくマスターしておく必要がある。

日商2級工簿 豆テスト#02 問題 (P.49～P.84)**問題1**

当社は材料費について予定消費価格@400円／個を用いており、実際の材料費は先入先出法により計算している。下記に示す資料を参考にして当月における材料費に関する全ての仕訳を示しなさい。

- ① 3月1日 月初材料：1,500個×@395円（仕訳不要）
- ② 3月中 材料掛仕入：5,000個×@401円
- ③ 〃 材料消費高：
 - (1) 直接材料費 4,800個
 - (2) 間接材料費 700個
- ④ 3月末 材料有高： 950個

問題2

下記に示す資料により当月中の直接労務費、間接労務費を計算し、その金額を解答用紙の各欄に記入しなさい。

- ① 当月賃金給料（直接作業員分）
 - 1. 基本給 2,860,000円
 - 2. 諸手当 290,000円
 - 3. 源泉徴収税他 189,000円
 - 4. 差引支給額 ? 円
- ② 当月中の直接作業時間
 - 1. 直接作業時間 1,900時間
 - 2. 間接作業時間 150時間
 - 3. 手待時間 50時間

問題3

下記に示す諸経費をその消費額の把握による4つの分類によりそれぞれ区分し、解答用紙の解答欄に示しなさい。

- | | | | |
|---------|-----------|---------|---------|
| Ⓐ 減価償却費 | Ⓑ 材料棚卸減耗費 | Ⓒ 水道光熱費 | Ⓓ 機械保険料 |
| Ⓔ 外注加工賃 | Ⓕ 福利厚生費 | Ⓖ 仕損費 | Ⓗ 修理代 |

日商 2 級工簿 豆テスト # 02 解答用紙

問題 1

② 材料掛仕入

() ()

③ 材料消費高

() ()

() ()

④ 材料減耗費の計上

() ()

⑤ 材料差異の計上

() ()

問題 2

Ⓐ 直接労務費 () 円

Ⓑ 間接労務費 () 円

問題 3

区 分	記 号
支 払 経 費	
月 割 経 費	
測 定 経 費	
発 生 経 費	

日商2級工簿 豆テスト#02 解答・解説

問題1

② 材料掛仕入		@401円×5,000個	
(材 料)	2,005,000	(買 掛 金)	2,005,000
③ 材料消費高		@400円×4,800個	
(仕 掛 品)	1,920,000	(材 料)	2,200,000
(製 品 間 接 費)	280,000	@400円×700個	
④ 材料減耗費の計上		(1,000個－950個)×@401円	
(材 料 減 耗 費)	20,050	(材 料)	20,050
5 材料差異の計上			
(材 料)	3,500	(材料消費価格差異)	3,500

解説

(日付省略)	材 料	
前 月 繰 越	592,500	仕 掛 品 1,920,000
買 掛 金	2,005,000	製 造 間 接 費 280,000
材料消費価格差異	3,500	材 料 減 耗 費 20,050
		次 月 繰 越 380,950 @401円+950個
	<u>2,601,000</u>	<u>2,601,000</u>

材料消費価格差異：

$$@400円 \times (4,800個 + 700個) - (@395円 \times 1,500個^* + @401円 \times 4,000個^*) = 3,500円$$

※当月消費量：4,800個 + 700個 = 5,500個（内：月初1,500個、当月分4,000個）

問題2

- Ⓐ 直接労務費 2,850,000円、Ⓑ 間接労務費 300,000円

解説

- 消費賃率：(2,860,000円 + 290,000円) ÷ (1,900時間 + 150時間 + 50時間) = @1,500円
- 直接労務費：1,900時間 × @1,500円 = 2,850,000円
- 間接労務費：(150時間 + 50時間) × @1,500円 = 300,000円

問題3

- 支払経費……E、F、H
- 月割経費……A、D
- 測定経費……C
- 発生経費……B、G

日商 2 級工簿 豆テスト # 03 問題 (P.85 ~ P.166)

問題 1 下記に示す工程別総合原価計算の資料を参考にして解答用紙に示す原価計算表を完成させなさい。

① 原価データ

1. 月初仕掛品

第 1 工程	材料費	75,000 円	第 2 工程	前工程費	147,700 円
	加工費	70,000 円		加工費	96,000 円

2. 当月投入原価

第 1 工程	材料費	550,000 円	第 2 工程	前工程費	?
	加工費	432,000 円		加工費	392,000 円

② 生産データ

	第 1 工程	第 2 工程
月初仕掛品	600kg (40%)	800kg (40%)
当月投入量	2,200kg	1,800kg
計	2,800kg	2,600kg
月末仕掛品	800kg (50%)	400kg (60%)
完成品数量	2,000kg	2,200kg

③ その他

1. 材料は工程の始点で投入され、以後は工程の進行に応じて加工が行われる。
2. 月末仕掛品の評価は第 1 工程が先入先出法、第 2 工程が平均法とする。
3. 第 1 工程から第 2 工程の振替えられないものは半製品として取扱う。

問題 2 下記に示す資料により平均法に基づき仕損費を完成品と月末仕掛品の両者、または完成品が負担するものとした場合の完成品原価をそれぞれ答えなさい。このとき材料は工程の始点で投入され以後は加工のみが行われるものとする。また月末仕掛品評価に際して生ずる円未満の端数は切捨ること。

① 原価データ

1. 月初仕掛品：材料費 40,000 円、加工費 30,000 円
2. 当月発生原価：材料費 280,000 円、加工費 190,000 円

② 生産データ

1. 月初仕掛品：150 個 (40%)
2. 当月投入量：1,500 個
3. 月末仕掛品：200 個 (50%)
4. 仕損品：50 個 (100%)

日商 2 級工簿 豆テスト # 03 解答用紙

問題 1

第 1 工程総合原価計算表

摘 要	材 料 費		加 工 費		合 計
	数 量	金 額	換 算 量	金 額	
月初仕掛品	kg	円	kg	円	円
当月投入量					
計					
月末仕掛品					
完 成 品	kg	円	kg	円	

(@ 円)

第 2 工程総合原価計算表

摘 要	前 工 程 費		加 工 費		合 計
	数 量	金 額	換 算 量	金 額	
月初仕掛品	kg	円	kg	円	円
当月投入量					
計					
月末仕掛品					
完 成 品					

(@ 円)

問題 2

- A

両者負担のケース

:

完成品原価

(

) 円
- B

完成品負担のケース

:

完成品原価

(

) 円

日商 2 級工簿 豆テスト # 03 解答・解説

問題 1

第 1 工程総合原価計算表

摘 要	材 料 費		加 工 費		合 計
	数 量	金 額	換 算 量	金 額	
月初仕掛品	600 kg	75,000 円	240 kg	70,000 円	145,000 円
当月投入量	2,200	550,000	2,160	432,000	982,000
計	2,800	625,000	2,400	502,000	1,127,000
月末仕掛品	800	200,000	400	80,000	280,000
完 成 品	2,000 kg	425,000 円	2,000 kg	422,000 円	847,000 円

(@ 423.5 円)

第 2 工程総合原価計算表

摘 要	前 工 程 費		加 工 費		合 計
	数 量	金 額	換 算 量	金 額	
月初仕掛品	800 kg	147,700 円	320 kg	96,000 円	243,700 円
当月投入量	1,800	762,300	2,120	392,000	1,154,300
計	2,600	910,000	2,440	488,000	1,398,000
月末仕掛品	400	140,000	240	48,000	188,000
完 成 品	2,200 kg	770,000 円	2,200 kg	440,000 円	1,210,000 円

(@ 550 円)

解説

1. 第 1 工程 (先入先出法)

$$(1) \text{ 材料費: } 550,000 \text{ 円} \times \frac{800 \text{ kg}}{2,000 \text{ kg} - 600 \text{ kg} + 800 \text{ kg}} = 200,000 \text{ 円}$$

$$(2) \text{ 加工費: } 432,000 \text{ 円} \times \frac{800 \text{ kg} \times 0.5}{2,000 \text{ kg} - 600 \text{ kg} \times 0.4 + 800 \text{ kg} \times 0.5} = 80,000 \text{ 円}$$

$$(3) \text{ 次工程振替高 } \{ 75,000 \text{ 円} + 70,000 \text{ 円} + 550,000 \text{ 円} + 432,000 \text{ 円} - (1) - (2) \} \times \frac{1,800 \text{ kg}}{2,000 \text{ kg}} = 762,300 \text{ 円}$$

2. 第 2 工程 (平均法)

$$(1) \text{ 前工程費: } (147,700 \text{ 円} + 762,300 \text{ 円}) \times \frac{400 \text{ kg}}{2,200 \text{ kg} + 400 \text{ kg}} = 140,000 \text{ 円}$$

$$(2) \text{ 加 工 費: } (96,000 \text{ 円} + 392,000 \text{ 円}) \times \frac{400 \text{ kg} \times 0.6}{2,200 \text{ kg} + 400 \text{ kg} \times 0.6} = 48,000 \text{ 円}$$

問題 2

Ⓐ 完成品負担のケース：完成品原価 485,334 円

Ⓑ 両者負担のケース：完成品原価 487,020 円

解説**A 両者負担****(1) 月末仕掛品**

$$\textcircled{1} \text{材料費} : (40,000 \text{円} + 280,000 \text{円}) \times \frac{200 \text{個}}{1,400 \text{個}^{\ast} + 200 \text{個}} = 40,000 \text{円}$$

$$\ast \text{完成品数量} : 150 \text{個} + 1,500 \text{個} - 200 \text{個} - 50 \text{個} = 1,400 \text{個}$$

$$\textcircled{2} \text{加工費} : (30,000 \text{円} + 190,000 \text{円}) \times \frac{200 \text{個} \times 0.5}{1,400 \text{個} + 200 \text{個} \times 0.5} \div 14,666 \text{円 (円未満切捨)}$$

$$\textcircled{3} \text{評価額} : \textcircled{1} + \textcircled{2} = 54,666 \text{円}$$

(2) 完成品原価

$$(40,000 \text{円} + 30,000 \text{円}) + (280,000 \text{円} + 190,000 \text{円}) - (1)\textcircled{3} = 485,334 \text{円}$$

B 完成品負担**(1) 月末仕掛品**

$$\textcircled{1} \text{材料費} : (40,000 \text{円} + 280,000 \text{円}) \times \frac{200 \text{個}}{1,400 \text{個} + 200 \text{個} + 50 \text{個}} \div 38,787 \text{円 (円未満切捨)}$$

$$\textcircled{2} \text{加工費} : (30,000 \text{円} + 190,000 \text{円}) \times \frac{200 \text{個} \times 0.5}{1,400 \text{個} + 200 \text{個} \times 0.5 + 50 \text{個}} \div 14,193 \text{円 (円未満切捨)}$$

$$\textcircled{3} \text{評価額} : \textcircled{1} + \textcircled{2} = 52,980 \text{円}$$

(2) 完成品原価

$$(40,000 \text{円} + 30,000 \text{円}) + (280,000 \text{円} + 190,000 \text{円}) - (1)\textcircled{3} = 487,020 \text{円}$$

日商2級工簿 豆テスト#04 問題 (P.167～P.176)

問題1 下記に示す製造原価に関する資料を参考にして直接労務費を基準にして各製品へ配賦する製造間接費の金額とこの振替に関する処理を示しなさい。

(製品原価に関する資料)

- (1) 当月材料費消費額：2,480,000円（内直接材料費1,950,000円）
- (2) 当月労務費消費額：1,370,000円
上記の労務費の内の各製品別労務費
A製品300,000円、B製品450,000円、C製品150,000円
- (3) 当月経費消費額：350,000円（全額間接費である。）

問題2 下記に示す資料は製造間接費に関する資料である。これらを参考にして当月中における製造間接費と製造間接費差異に関する勘定口座の記入を示しなさい。

① 製造間接費は予定配賦（直接作業時間）を行っており、その資料は次の通りである。

- (1) 製造間接費月間予算額 248,000円
- (2) 基準操業度としての直接作業時間 2,000時間

② 当月の製造間接費の実際発生額

- (1) 間接材料費 101,000円
- (2) 間接労務費 95,700円
- (3) 間接経費 61,200円

③ 製造指図書別の直接作業時間

- (1) 製造指図書 #401 980時間
- (2) 製造指図書 #402 670時間
- (3) 製造指図書 #403 420時間

日商2級工簿 豆テスト#04 解答用紙

問題1

- ① 各製品別製造間接費配賦額
- A製品 () 円
- B製品 () 円
- C製品 () 円
- ② 製造間接費配賦仕訳

勘定科目	金額	勘定科目	金額

問題2

(日付省略)		製造間接費	
材料	()	()	()
賃金給料	()	()	()
経費	()		
	<u>()</u>		<u>()</u>
(日付省略)		製造間接費差異	
製造間接費	()		

日商 2 級工簿 豆テスト # 04 解答・解説

問題 1

① 製品別製造間接費配賦額

A 製品 450,000 円

B 製品 675,000 円

C 製品 225,000 円

② 製造間接費配賦仕訳

(仕 掛 品) 1,350,000 (製造間接費) 1,350,000

解説

1. 製造間接費の合計額

(1) 間接材料費：2,480,000 円 - 1,950,000 円 = 530,000 円

(2) 間接労務費：1,370,000 円 - (300,000 円 + 450,000 円 + 150,000 円) = 470,000 円

(3) 間 接 経 費：350,000 円

(4) 合計額：(1) + (2) + (3) = 1,350,000 円

2. 配賦率

$$\frac{1,350,000 \text{ 円}}{300,000 \text{ 円} + 450,000 \text{ 円} + 150,000 \text{ 円}} = 1.5$$

3. 製造間接費配賦額

A 製品：300,000 円 × 1.5 = 450,000 円

B 製品：450,000 円 × 1.5 = 675,000 円

C 製品：150,000 円 × 1.5 = 225,000 円

} 計 1,350,000 円

問題 2

(日付省略)		製造間接費	
材 料	(101,000)	(仕 掛 品)	(256,680)
賃 金 給 料	(95,700)	(製造間接費差異)	(1,220)
経 費	(61,200)		
	(257,900)		(257,900)

(日付省略)		製造間接費差異	
製造間接費	(1,220)		

解説

1. 製造間接費予定配賦率

$$\text{予定配賦率} : \frac{248,000 \text{ 円}}{2,000 \text{ 時間}} = @ 124 \text{ 円}$$

2. 各指図書別配賦額

製造指図書 # 401：980 時間 × @ 124 円 = 121,520 円

製造指図書 # 402：670 時間 × @ 124 円 = 83,080 円

製造指図書 # 403：420 時間 × @ 124 円 = 52,080 円

計 256,680 円

3. 製造間接費差異

$$\begin{array}{cc} \text{製造間接費実際発生額} & \text{予定配賦額} \\ (101,000 \text{ 円} + 95,700 \text{ 円} + 61,200 \text{ 円}) & - 256,680 \text{ 円} = 1,220 \text{ 円} \end{array}$$

日商 2 級工簿 豆テスト # 05 問題 (P.177 ~ P.199)

問題 1 下記に示す部門費に関する資料を参考にして相互配賦法により解答用紙の部門費配賦表を完成させなさい。

(資 料)

① 部門費集計表の内訳

部門費集計表							(単位：円)
費 目	配賦基準	金 額	製造部門		補助部門		
			切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
		984,400	339,200	401,600	105,600	96,000	42,000

② 補助部門費の配賦基準

補助部門費	配賦基準	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
動力部門費	kw 数×時間	6,000kw/h	4,000kw/h	—	800kw/h	200kw/h
修繕部門費	修繕回数	70 回	30 回	20 回	—	—
事務部門費	従業員数	40 人	60 人	10 人	15 人	—

問題 2 上記の部門費配賦費の結果を参考にして部門費の振替仕訳を第 1 次、第 2 次配賦を一括した仕訳として解答用紙に示しなさい。

日商 2 級工簿 豆テスト # 05 解答用紙

問題 1

部門費配賦表

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門		
			切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
部門費計							
第 1 次配賦							
動力部門費							
修繕部門費							
事務部門費							
第 1 次配賦計							
第 2 次配賦							
動力部門費							
修繕部門費							
事務部門費							
第 2 次配賦計							
製造部門費							

問題 2

第 1 次配賦と第 2 次配賦を一括した仕訳

(切 削 部 門 費)	_____	(動 力 部 門 費)	_____
(組 立 部 門 費)	_____	(修 繕 部 門 費)	_____
		(事 務 部 門 費)	_____

日商2級工簿 豆テスト#05 解答・解説

問題1

部門費配賦表

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門		
			切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
部門費計		984,400	339,200	401,600	105,600	96,000	42,000
第1次配賦							
動力部門費	kw数×時間	105,600	57,600	38,400	—	7,680	1,920
修繕部門費	修繕回数	96,000	56,000	24,000	16,000	—	
事務部門費	従業員数	42,000	13,440	20,160	3,360	5,040	—
第1次配賦計		243,600	127,040	82,560	19,360	12,720	1,920
第2次配賦							
動力部門費	kw数×時間	19,360	11,616	7,744			
修繕部門費	修繕回数	12,720	8,904	3,816			
事務部門費	従業員数	1,920	768	1,152			
第2次配賦計		34,000	21,288	12,712			
製造部門費		984,400	487,528	496,872			

解説

1. 第1次配賦

$$\begin{aligned}
 \text{①動力部} &: 105,600 \text{円} \times \frac{6,000 \text{kw/h}}{6,000 \text{kw/h} + 4,000 \text{kw/h} + 800 \text{kw/h} + 200 \text{kw/h}} = \frac{\text{切削部}}{57,600 \text{円}} \text{ (以下同様)} \\
 \text{②修繕部} &: 96,000 \text{円} \times \frac{70 \text{回}}{70 \text{回} + 30 \text{回} + 20 \text{回}} = \frac{\text{切削部}}{57,600 \text{円}} \text{ (以下同様)} \\
 \text{③事務部} &: 42,000 \text{円} \times \frac{40 \text{人}}{40 \text{人} + 60 \text{人} + 10 \text{人} + 15 \text{人}} = \frac{\text{切削部}}{13,440 \text{円}} \text{ (以下同様)}
 \end{aligned}$$

2. 第2次配賦

第2次配賦は補助部への配賦は行わないので注意すること。

$$\begin{aligned}
 \text{①動力部} &: 19,360 \text{円} \times \frac{6,000 \text{kw/h}}{6,000 \text{kw/h} + 4,000 \text{kw/h}} = \frac{\text{切削部}}{11,616 \text{円}} \text{ (組立部も同様)} \\
 \text{②修繕部} &: 12,720 \text{円} \times \frac{70 \text{回}}{70 \text{回} + 30 \text{回}} = \frac{\text{切削部}}{8,904 \text{円}} \text{ (組立部も同様)} \\
 \text{③事務部} &: 1,920 \text{円} \times \frac{40 \text{人}}{40 \text{人} + 60 \text{人}} = \frac{\text{切削部}}{768 \text{円}} \text{ (組立部も同様)}
 \end{aligned}$$

問題2

(切削部門費)	148,328	(動力部門費)	105,600
(組立部門費)	95,272	(修繕部門費)	96,000
		(事務部門費)	42,000

解説

$$\begin{array}{rcl}
 \text{第1次配賦計} & \text{第2次配賦計} & \\
 \text{切削部門費: } 127,040 \text{円} & + & 21,288 \text{円} = 148,328 \text{円}
 \end{array}$$

$$\begin{array}{rcl}
 \text{同上} & \text{同上} & \\
 \text{組立部門費: } 82,560 \text{円} & + & 12,712 \text{円} = 95,272 \text{円}
 \end{array}$$

日商 2 級工簿 豆テスト # 06 問題 (P.200 ~ P.209)

問題 1 下記に示す資料は個別原価計算を前提したものである。よってこれらを参考にして解答用紙に示す原価計算表の不明個所を推定して原価計算表を完成させなさい。

(資料)

- ① 月初の仕掛品は下記の 2 つである。

製造指図書 # 101 152,300

製造指図書 # 102 ?

- ② 当期中における仕掛品勘定（一部）を示せば次の通りである。

(日付省略)	仕 掛 品	
前 月 繰 越	187,600	製 品 1,307,000
材 料	500,000	次 月 繰 越 ?
労 務 費	262,200	
経 費	221,300	
製造間接費	?	

- ③ 製造間接費は直接材料費の 120% を予定配賦している。
- ④ 当月中に製造指図書 # 101 ~ 103 は完成し、納品も完了している。したがって月末仕掛品は # 104 と 105 のみであり、この 2 つの仕掛品の評価額は 464,100 円である。

問題 2 当月発生した 2 つの仕損品について、その評価額を計算して解答用紙の各解答欄に答えなさい。

- ① 製造指図書 # 401

受注品全てが仕損となった。仕損発生までの原価は合計 787,000 円である。この仕損の発生により代品製造を行うこととし、完成までに要した原価の総額は 562,000 円であった。

- ② 製造指図書 # 503

受注品の一部に欠陥が発生しており、部分的な補修を行った。欠陥が発生するまでの原価は 324,000 円であり、欠陥の補修を行うために発生した補修原価は 139,000 円であった。

日商2級工簿 豆テスト#06 解答用紙

問題1

原価計算表

(単位:円)

内 訳	# 101	# 102	# 103	# 104	# 105	合 計
月初仕掛品						
直接材料費	100,000		120,000	80,000		
直接労務費		82,300	53,000	24,000	37,600	
直接経費			50,000			
製造間接費		180,000			60,000	
合 計	461,000			243,000		

問題2

- ① 製造指図書 # 401 仕損費 () 円
② 製造指図書 # 503 仕損費 () 円

日商 2 級工簿 豆テスト # 06 解答・解説

問題 1

原価計算表

(単位：円)

内 訳	# 101	# 102	# 103	# 104	# 105	合 計
月初仕掛品	152,300	35,300	—	—	—	187,600
直接材料費	100,000	150,000	120,000	80,000	50,000	500,000
直接労務費	65,300	82,300	53,000	24,000	37,600	262,200
直接経費	23,400	31,400	50,000	43,000	73,500	221,300
製造間接費	120,000	180,000	144,000	96,000	60,000	600,000
合 計	461,000	479,000	367,000	243,000	221,100	1,771,100

解説

1. 月初仕掛品

$$\begin{array}{rclclcl} & \text{合計} & & \# 101 & & \# 102 \\ 187,600 \text{ 円} & - & 152,300 \text{ 円} & = & 35,300 \text{ 円} \end{array}$$

2. 直接材料費

$$\begin{array}{rclclcl} & \# 102 \text{ 製造間接費} & \text{配賦率} & & \# 102 \\ 180,000 \text{ 円} & \div & 1.2 & = & 150,000 \text{ 円} \end{array}$$

$$\begin{array}{rclclclcl} \text{材料費合計} & \# 101 \text{ 材料} & \# 102 \text{ 材料} & \# 103 \text{ 材料} & \# 104 \text{ 材料} & \# 105 \\ 500,000 \text{ 円} & - & 100,000 \text{ 円} & - & 150,000 \text{ 円} & - & 120,000 \text{ 円} & - & 80,000 \text{ 円} & = & 50,000 \text{ 円} \end{array}$$

3. 直接労務費

$$\begin{array}{rclclclclcl} \text{労務費合計} & \# 102 & \# 103 & \# 104 & \# 105 & \# 101 \\ 262,200 \text{ 円} & - & 82,300 \text{ 円} & - & 53,000 \text{ 円} & - & 24,000 \text{ 円} & - & 37,600 \text{ 円} & = & 65,300 \text{ 円} \end{array}$$

4. 製造間接費

$$\begin{array}{rclclcl} \# 101 \text{ 直接材料費} & & \text{製造間接費} \\ 100,000 \text{ 円} & \times & 1.2 & = & 120,000 \text{ 円} \end{array}$$

$$\begin{array}{rclclcl} \# 103 \text{ 直接材料費} & & \text{製造間接費} \\ 120,000 \text{ 円} & \times & 1.2 & = & 144,000 \text{ 円} \end{array}$$

$$\begin{array}{rclclcl} \# 104 \text{ 直接材料費} & & \text{製造間接費} \\ 80,000 \text{ 円} & \times & 1.2 & = & 96,000 \text{ 円} \end{array}$$

5. 月末仕掛品

$$\begin{array}{rclclcl} \text{月末合計} & & \# 104 \text{ 原価} & & \# 105 \text{ 仕掛品} \\ 464,100 \text{ 円} & - & 243,000 \text{ 円} & = & 221,100 \text{ 円} \end{array}$$

問題 2

① 製造指図書 # 401 仕損費 787,000 円

② 製造指図書 # 503 仕損費 139,000 円

解説

① 製造指図書 # 401

仕掛中の製品の全てが仕損となった場合は代品の製造のために代品製造指図書が発行され、これに新たに製造される製品の原価が集計される。

この場合仕損が発生するまでに消費した旧製造指図書の原価の全てが仕損費として代品製造指図書に計上されることになる。

② 製造指図書 # 503

製造中の製品の一部に欠陥等が発生し、これを補修する必要がある場合は補修製造指図書が別途発行され、ここに補修に要した原価が集計されて、これが仕損費として取扱われることになる。

日商2級工簿 豆テスト#07 問題 (P.210～P.236)

問題1 下記に示す資料を参考にして、原価の差異分析を行い解答用紙の各欄にそれぞれの金額を答えなさい。
なお不利差異には金額の左側に△マークを付すこと。

(資料)

① 標準原価は下記の通りである。

標準原価カード			
I 標準直接材料費	@ 460円×	14個 =	6,440円
II 標準直接労務費	@ 2,500円×	1時間 =	2,500円
III 標準製造間接費	@ 3,700円×	1時間 =	3,700円
製品1単位当りの標準原価			<u>12,640円</u>

② 当月の実際発生原価

1. 直接材料費 @ 500円× 13,800個 = 6,900,000円
2. 直接労務費 @ 2,800円× 1,050時間 = 2,940,000円
3. 製造間接費 4,200,000円

③ その他

1. 当月の製品の生産量は1,000個であり、月初、月末の仕掛品はない。
2. 製造間接費は公式法変動予算により分析し、変動費率は@ 1,700円、固定費は2,310,000円（月額）とする。

問題2 上記問題1の資料を参考にしてパーシャルプラン法により当月における仕掛品勘定を完成させなさい。

日商 2 級工簿 豆テスト # 07 解答用紙

問題 1

① 直接材料費

- 1. 総 差 異 () 円
- 2. 数 量 差 異 () 円
- 3. 価 格 差 異 () 円

② 直接労務費

- 1. 総 差 異 () 円
- 2. 時 間 差 異 () 円
- 3. 賃 率 差 異 () 円

③ 製造間接費

- 1. 総 差 異 () 円
- 2. 予 算 差 異 () 円
- 3. 操業度差異 () 円
- 4. 能 率 差 異 () 円

問題 2

(日付省略)		仕 掛 品	
材	料 ()	製	品 ()
労	務 費 ()	()	()
製	造 間 接 費 ()	()	()
		()	()
	()		()

問題 1

① 直接材料費

1. 総 差 異 △460,000 円
2. 数 量 差 異 92,000 円
3. 価 格 差 異 △552,000 円

② 直接労務費

1. 総 差 異 △440,000 円
2. 時 間 差 異 △125,000 円
3. 賃 率 差 異 △315,000 円

③ 製造間接費

1. 総 差 異 △500,000 円
2. 予 算 差 異 △105,000 円
3. 操業度差異 △210,000 円
4. 能 率 差 異 △185,000 円

解説

1. 直接材料費：

総差異 @460 円 × 14 個 × 1,000 個 - @500 円 × 13,800 個 = △460,000 円

実際価格@500 円

標準価格@460 円

価格差異 △552,000 円	
標準直接材料費 6,440,000 円	数量差異 92,000 円

標準消費量 実際消費量

14個×1,000個 → 14,000 個 13,800 個

2. 直接労務費：

総差異 @2,500 円 × 1 時間 × 1,000 個 - @2,800 円 × 1,050 時間 = △440,000 円

実際賃率@2,800 円

標準賃率@2,500 円

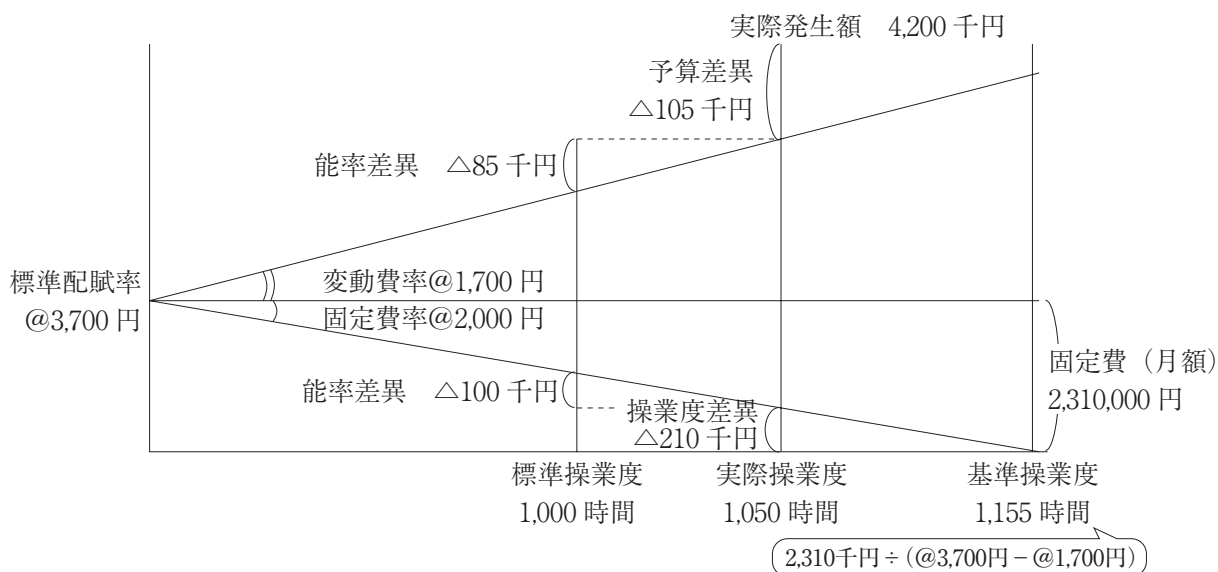
賃率差異 △315,000 円	
標準直接労務費 2,500,000 円	時間差異 △125,000 円

標準作業時間 実際作業時間

1時間×1,000個 → 1,000 時間 1,050 時間

3. 製造間接費

総差異：@ 3,700円 × 1,000個 - 4,200,000円 = △ 500,000円



$$(1) \text{ 予算差異} : \frac{\text{変動費率}}{\text{実際操業度}} \times \frac{\text{固定費}}{\text{基準操業度}} - \frac{\text{実際発生額}}{\text{基準操業度}} = \triangle 105,000 \text{円}$$

$$(2) \text{ 操業度差異} : (\text{実際操業度} - \text{基準操業度}) \times \frac{\text{固定費率}}{\text{基準操業度}} = \triangle 210,000 \text{円}$$

$$\text{固定費率} : \frac{\text{固定費予算}}{\text{基準操業度}} = \frac{2,310,000 \text{円}}{1,155 \text{時間}} = @ 2,000 \text{円}$$

$$\text{標準配賦率} - \text{変動費率} = @ 3,700 \text{円} - @ 1,700 \text{円} = @ 2,000 \text{円}$$

$$(3) \text{ 能率差異} : (\text{標準操業度} - \text{実際操業度}) \times \text{標準配賦率} = \triangle 185,000 \text{円}$$

※内訳

$$\text{変動費分} : (\text{標準操業度} - \text{実際操業度}) \times \text{変動費率} = 85 \text{千円}$$

$$\text{固定費分} : (\text{標準操業度} - \text{実際操業度}) \times \text{固定費率} = 100 \text{千円}$$

問題2

(日付省略)

仕掛品

材	料	6,900,000	製	品	12,640,000
労	務	2,940,000	直接材料費差異		460,000
製	造	4,200,000	直接労務費差異		440,000
	間		製造間接費差異		500,000
	接				
	費				
		14,040,000			14,040,000

内訳

$$\text{完成品原価} : @ 12,640 \text{円} \times 1,000 \text{個} = 12,640,000 \text{円}$$

日商2級工簿 豆テスト#08 問題 (P.237～P.251)**問題1**

下記に示す直接原価計算による損益計算書を参考にして貢献利益率と損益分岐点における売上高を答えなさい。

<u>損益計算書</u>		(単位：千円)
I	売上高	1,750
II	変動費	1,050
	貢献利益	700
III	固定費	420
	営業利益	280

問題2

下記に示す直接原価計算による損益計算書を参考にして損益分岐点における貢献利益、また営業利益を3,000千円獲得するための売上高をそれぞれ答えなさい。

<u>損益計算書</u>		(単位：千円)
I	売上高	50,000
II	変動売上原価	27,500
	変動製造マージン	22,500
III	変動販売費	2,500
	貢献利益	20,000
IV	固定費	15,000
	営業利益	5,000

日商 2 級工簿 豆テスト # 08 解答用紙

問題 1

- ① 貢献利益率 () %
- ② 損益分岐点の売上高 () 千円

問題 2

- ① 損益分岐点における貢献利益 () 千円
- ② 営業利益 3,000 千円となる売上高 () 千円

日商2級工簿 豆テスト#08 解答・解説

問題1

- ① 貢献利益率 40%
 ② 損益分岐点の売上高 1,050千円

解説

1. 貢献利益率

$$\frac{\text{貢献利益}}{\text{売上高}} = \frac{700 \text{ 千円}}{1,750 \text{ 千円}} = 0.4 \text{ (40\%)}$$

2. 損益分岐点の売上高

$$\frac{\text{固定費}}{\text{貢献利益率}} = \frac{420 \text{ 千円}}{40\%} = 1,050 \text{ 千円}$$

(参考)

損益計算書 (単位: 千円)	
I 売上高	1,050
II 変動費	630
貢献利益	420
III 固定費	420
営業利益	0

問題2

- ① 損益分岐点における貢献利益 15,000千円
 ② 営業利益3,000千円となる売上高 45,000千円

解説

1. 損益分岐点における貢献利益

損益計算書 (単位: 千円)	
I 売上高	37,500
II 変動売上原価	20,625
変動製造マージン	16,875
III 変動販売費	1,875
貢献利益	15,000
IV 固定費	15,000
営業利益	0

※貢献利益率は下記の方法で計算できる。

$$\frac{\text{貢献利益}}{\text{売上高}} = \frac{20,000 \text{ 千円}}{50,000 \text{ 千円}} = 40\%$$

※変動売上原価と変動販売費率は問題資料のP/Lより計算することができる。

$$\text{変動売上原価率} : \frac{\text{変動売上原価}}{\text{売上高}} = \frac{27,500 \text{ 千円}}{50,000 \text{ 千円}} = 0.55 \text{ (55\%)}$$

$$\text{変動販売費率} : \frac{\text{変動販売費}}{\text{売上高}} = \frac{2,500 \text{ 千円}}{50,000 \text{ 千円}} = 0.05 \text{ (5\%)}$$

2. 営業利益3,000千円となる売上高

<u>損益計算書</u> (単位：千円)		
I	売上高	45,000 <-----
II	変動売上原価	55% 24,750
	変動製造マージン	20,250 40%
III	変動販売費	5% 2,250
	貢献利益	18,000 -----
IV	固定費	15,000
	営業利益	<u>3,000</u>

問題

工場の会計が独立していることを前提にして、下記の取引仕訳を工場側、本社側としてそれぞれ解答用紙の解答欄に示しなさい。

- ① 工場では買掛金54,000円を決済するために本社を名宛人とする為替手形を振出し、本社の引受を得て仕入先へ引渡した。
- ② 本社で材料120,000円を掛により仕入れ、納品は工場へ直納させた。
- ③ 本日給料日であり全従業員の給料800,000円から30,000円の所得税等を控除した残額を現金で支給した。この給料のうち、370,000円は工場の工員分である。
- ④ 本社で売掛金の回収として工場が振出した約束手形84,000円の裏書譲渡を受けた。
- ⑤ 工場で当月完成した製品の原価は426,000円であった。完成品原価はまず工場で製品として計上している。
- ⑥ 本社で固定資産税150,000円を現金で支払った。この金額のうち60%は工場の固定資産（間接経費扱い）に関するものである。
- ⑦ 工場から本社へ原価200,000円の製品を240,000円で内部取引として販売した。
- ⑧ 本社で修繕費80,000円を現金で支払った。この修繕費は工場機械に関するもので全額間接経費となるものである。
- ⑨ 当月における製造間接費の合計は170,000円であった。
- ⑩ 上記③で源泉徴収した30,000円を工場が現金で給付した。

日商 2 級工簿 豆テスト # 09 解答用紙

	会計単位	借 方		貸 方	
		勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1	本 社				
	工 場				
2	本 社				
	工 場				
3	本 社				
	工 場				
4	本 社				
	工 場				
5	本 社				
	工 場				
6	本 社				
	工 場				
7	本 社				
	工 場				
8	本 社				
	工 場				
9	本 社				
	工 場				
10	本 社				
	工 場				

日商2級工簿 豆テスト#09 解答・解説

	会計単位	借 方		貸 方	
		勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1	本 社	工 場 元 帳	54,000	支 払 手 形	54,000
	工 場	買 掛 金	54,000	一 般 元 帳	54,000
2	本 社	工 場 元 帳	120,000	買 掛 金	120,000
	工 場	材 料	120,000	一 般 元 帳	120,000
3	本 社	給 料	430,000	現 金	770,000
		工 場 元 帳	370,000	預 り 金	30,000
	工 場	労 務 費	370,000	一 般 元 帳	370,000
4	本 社	工 場 元 帳	84,000	売 掛 金	84,000
	工 場	支 払 手 形	84,000	一 般 元 帳	84,000
5	本 社	仕 訳 な し			
	工 場	製 品	426,000	仕 掛 品	426,000
6	本 社	租 税 公 課	60,000	現 金	150,000
		工 場 元 帳	90,000		
	工 場	製 造 間 接 費※	90,000	一 般 元 帳	90,000
7	本 社	製 品	240,000	工 場 元 帳	240,000
	工 場	一 般 元 帳	240,000	内 部 売 上 品	240,000
		内 部 売 上 原 価	200,000	製 品	200,000
8	本 社	工 場 元 帳	80,000	現 金	80,000
	工 場	製 造 間 接 費※	80,000	一 般 元 帳	80,000
9	本 社	仕 訳 な し			
	工 場	仕 掛 品	170,000	製 造 間 接 費	170,000
10	本 社	預 り 金	30,000	工 場 元 帳	30,000
	工 場	一 般 元 帳	30,000	現 金	30,000

※製造間接費……経費勘定として処理しても良い。

日商 2 級工簿 豆テスト # 10 問題 (P.259 ~ P.266)

問題 1 下記に示す資料を参考にして解答用紙の製造原価報告書を完成させなさい。

① 材料費

	主要材料	補助材料
1. 期首材料棚卸高：	150,000 円	40,000 円
2. 当期材料仕入高：	800,000 円	230,000 円
3. 期末材料棚卸高：	120,000 円	60,000 円

② 労務費

	期首未払	当期支払合計	期末未払
1. 直接工賃金：	35,000 円	407,000 円	41,000 円
2. 間接工賃金：	17,000 円	163,000 円	11,000 円

③ 経 費

全て間接費であり当期分は 133,000 円である。

④ 製造間接費

製造間接費は予定配賦しており、その配賦額の合計は 480,000 円である。

⑤ 仕掛品評価額

1. 期首棚卸高 124,000 円
2. 期末棚卸高 347,000 円

問題 2 上記で作成した製造原価を基礎にして、下記に示す資料を考慮し解答用紙の損益計算書を完成させなさい。

- ① 当期の製品売上高は 1,800,000 円である。
- ② 製品の棚卸高は期首が 190,000 円、期末が 310,000 円である。
- ③ 当期発生した原価差異を売上原価に加減すること。
- ④ 当期における諸経費の支払額は次の通りである。
 1. 製品の広告宣伝費 60,000 円
 2. 本社建物の減価償却費 30,000 円
 3. 本社事務員の給料 70,000 円
 4. 営業担当者の給料 140,000 円

日商2級工簿 豆テスト#10 解答用紙

問題1

製造原価報告書		(単位：円)
I	直接材料費	()
II	直接労務費	()
III	製造間接費	()
IV	製造間接費差異	()
	当期総製造費用	()
	期首仕掛品棚卸高	()
	合 計	()
	期末仕掛品棚卸高	()
	当期製品製造原価	()

問題2

損益計算書		(単位：円)
I	売上高	()
II	売上原価	
	1. 期首製品棚卸高	()
	2. 当期製品製造原価	()
	計	()
	3. 期末製品棚卸高	()
	差 引	()
	4. 原 価 差 異	() ()
	売 上 総 利 益	()
III	販売費及び一般管理費	
	1. 販 売 費	()
	2. 一般管理費	() ()
	営 業 利 益	()

日商2級工簿 豆テスト#10 解答・解説

問題1

製造原価報告書		(単位:円)
I	直接材料費	830,000
II	直接労務費	413,000
III	製造間接費	500,000
IV	製造間接費差異	(-) 20,000
	当期総製造費用	1,723,000
	期首仕掛品棚卸高	124,000
	合計	1,847,000
	期末仕掛品棚卸高	347,000
	当期製品製造原価	1,500,000

解説

- 材料費（主要材料）： $150,000円 + 800,000円 - 120,000円 = 830,000円$
- 労務費（直接工）： $(407,000円 - 35,000円) + 41,000円 = 413,000円$
- 製造間接費
 - 実際額：
 - ①間接材料： $40,000円 + 230,000円 - 60,000円 = 210,000円$
 - ②間接労務費： $(163,000円 - 17,000円) + 11,000円 = 157,000円$
 - ③間接経費： $133,000円$
 - ④合計： $① + ② + ③ = 500,000円$
 - 製造間接費差異

製造間接費		
間接材料費	210 千円	予定配賦額 480 千円
間接労務費	157 千円	
間接経費	133 千円	
		借方差異 20 千円

問題2

<u>損益計算書</u>		(単位：円)
I 売上高		1,800,000
II 売上原価		
1. 期首製品棚卸高	190,000	
2. 当期製品製造原価	1,500,000	
計	1,690,000	
3. 期末製品棚卸高	310,000	
差引	1,380,000	
4. 原価差異	(+) 20,000	1,400,000
売上総利益		400,000
III 販売費及び一般管理費		
1. 販売費	200,000	
2. 一般管理費	100,000	300,000
営業利益		100,000

解説

1. 販売費： 広告宣伝費 60,000円 + 営業担当者給料 140,000円 = 200,000円
2. 一般管理費： 減価償却 30,000円 + 本社事務員給料 70,000円 = 100,000円